

<三河会場>

- 開催期日：令和元年11月13日（水）
- 開催場所：愛知県西三河総合庁舎  
701 会議室
- 参加人数：46人

<尾張会場>

- 開催期日：令和元年11月27日（水）
- 開催場所：愛知県自治センター  
会議室E
- 参加人数：160人

<講演>

演題：「子どもとのかかわり方を考えるために ～かかわりの糸を結ぶ7つの言葉～」  
講師：名城大学 教職センター長・教授 曾山 和彦 氏

曾山 氏からは、自分に自信がない、自分を大切にできない、他者との関わりが苦手な子供たちに自尊感情やソーシャルスキルを育むため、どのように関わっていけばよいか、その在り方について7つの言葉をキーワードとして学びました。

曾山 氏は、始めに、核家族化や家庭の教育力の低下、地域で子供を育てにくくなっている中、現在の子供が、家庭や地域で人との関わりが少なくなっていること、そして、自尊感情やソーシャルスキルを育むことが大切であり、「人との関わり（人からの言葉）」が重要であると話されました。そのためのトレーニングとして「アドジャン」を紹介され、参加者とともに実践をしました。

また、「2本のアンテナ理論」として、場面や年齢、発達段階、障害特性等に留意をしながら、「アイメッセージ」や「ユーメッセージ」の使い分けによる言葉がけなどの方法について説明がありました。

更に、「穴の空いたコップ理論」「子供が持っているグループにボールを投げる」など、子供に言葉をかけ続けることが、自尊感情を育むためには重要であると話されました。

講演の最中も参加者が数人でグループをつくり、お互いに関わりながら、また、体験をしながら、子供への関わり方を学びました。

<7つの言葉>

- 1 関係づくりの第一歩は相手への関心から
- 2 笑うから幸せになる
- 3 正しいことを言うときには少し控えめに言うといい
- 4 うまくやれているとき（ルール遵守）を見逃さない
- 5 「私」の気持ちを伝える
- 6 「型」の中に見いだす違いが「個性」になる
- 7 子供が持っている「グローブ」に「ボール」を投げる



<参加者の声>

- 技術の習得が大人にとっても子供にとっても幸福につながると思った。
- 先日、「褒めて育てる」ことについて話し合った。それは間違っているのではなく、バランスが大切だと感じた。落とし穴もあることもわかった。自分がガチガチに固まっていることも「アドジャン」で気づいた。色々なことに気づかされた。
- 言葉がけの大切さは以前からわかっていたものの、その内容を考える必要があることを強く感じた。「ほめる」だけではダメだと感じた。男女、年齢に応じて言葉がけの内容を考えていこうと思った。
- 「ありがとう」、「助かった」、「うれしい」の言葉を、いっぱい子供たちに声かけしていこうと思った。